

1. 教科として大切にしていること

家庭科は家庭生活そのものを学びの対象としており、日常生活における自立や共生を目指し、そのために必要な生きる力や実践的態度を育成する教科である。学習指導要領において、「見方・考え方」は教科ならではの物事をとらえる視点や考え方であると示されており、「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」等が視点として挙げられており、その見方・考え方を働かせながら、よりよく家庭生活を営むことが示されている。そこで、本校家庭科では次の3つのことに重点を置く。

(1) 学習課題の工夫

生徒が主体的に取り組んでみたいと思える学習課題を設定するために以下の要素を入れる。

- ・身近で実生活に近いもの
- ・現在の社会問題や生徒の興味・関心の高い教材や学習課題
- ・家庭や地域・社会と連携できるもの
- ・多面的・多角的な視座に立ち学習することができる

(2) 実践的・体験的な学習の充実

調理実習や調理実験、裁縫、手芸、洗濯実習（洗剤のはたらき、しみ抜き、アイロンかけ）、幼児との触れ合い体験、高齢者体験、ゲストティーチャーの招待など実践的・体験的な学習の機会を多く設定し、学びの質を高める。

(3) 他者との協働・対話

家庭科の学習においては、生活経験や知識・技能の個人差、価値観の違いが様々な活動で影響するため、他者と協働することや他者との対話を通して、考えを再構築したり、足りないものを補ったり、新たなものを生み出したり、学習の価値を高める。

2. 教科研究のあゆみ

本校の研究テーマについて	研究テーマと家庭科のかかわり
第29次研究テーマ 2017～2018年度 社会の変化に対応できる生徒の育成 サブテーマ 対話的な学びを通じて資質・能力が伸びる授業	4つの資質・能力〔根拠に基づいて論理的に考える力〕、 〔情報が持つ意味をクリティカルに考える力〕、〔事象の中から課題を見つける力〕、〔他者の思いに共感する力〕に着目し、これらを伸ばす手だてとして課題の工夫、対話的な学びの充実、実践的・体験的な学習活動の充実を挙げ、研究を行った。
第30次研究テーマ 2019～2020年度 社会の変化に対応できる生徒の育成 サブテーマ SDGsを核に資質・能力が伸びる取組をめざして	問題解決的な学習課題に対話的思考や協働の学びを通して取り組み、生活の課題を発見し改善しようとする実践力を高める授業づくりを行った。

これまでの研究で大切にされてきたことは、前述の「1. 教科として大切にしていること」に挙げた3つの

ことである。本次研究においても、引き続き生徒にとって魅力的な課題を工夫し、他者との協働・対話の機会を設け、実践的・体験的学習を通して資質・能力を育成することをめざす。

3. 資質・能力の育成を図る手立て

(1) 8つの資質・能力と家庭科

家庭科は「よりよい家庭生活」「より豊かな家庭生活」の実現に向け、主体的に取り組む実践力や態度の育成をめざしている。そのためには、日常生活の中にある様々な生活課題に気づき、その課題に対し「なぜそうなのか」と経験や科学的な根拠に基づいて考えたり、「本当にこれでいいのか」と多面的・多角的に見直すことでよりよい解決策へと導くことが可能となる【問題発見】【根拠】【じっくり・いろいろ】【アイディア】。

また、問題解決に向け、他者と話し合い、対話を通して考えを再構築したり、適切な価値判断を行ったり、他者と共に生活を創造していく力が必要だと考える。生活者として地域や社会に目を向け持続可能な社会の構築の視点で自分の生活を見直し、家族や地域、社会へ働きかけることも大切である。このような問題解決的な学習を通して、資質・能力の向上が期待できると考える【問題解決】【協働】【振り返り】【伝達・発信】。

第30次研究において第2学年で実施した「地域の旬食材をいかした給食（和食の献立）を提案しよう」では、旬の食材や和食文化（だしの効果）の魅力や献立の要素等を根拠に基づいて考えた。また、給食としての条件を設定し、その中で様々な視点を働かせ、グループで意見交流をしながら献立を考えさせた。代表班の献立は実際に給食で提供していただいた。このように生徒にとって身近で実生活により近いパフォーマンス課題を設定することにより、主体的に取り組む姿が見られた。また、社会全体の課題でもある災害対策について、災害に備える住まいや災害に備えた食生活についての学習では対話的思考や協働の学びを通して一人では解決が難しい課題に取り組ませた。

(2) STEP とのつながり

家庭科は家庭生活そのものを学びの対象としているため、社会の変化や例えば新型コロナウイルス感染拡大による生活様式の変化、地球の環境悪化など、現代的な諸課題が大きく影響しており、その都度学習内容が見直され、改訂されている。家庭科の見方・考え方の一例である「健康的な家庭生活」「持続可能な社会の構築」はSDGsに関する取組と関連していることから、本校が取り組んでいるSTEP（SDGsの探究学習）の活動と深く関わっているといえる。

令和4年度末、ロイロノートのアンケート機能を活用し、家庭科の年間の学びを振り返るアンケートを実施した。（当時1・2年生に実施）この結果から、生徒自身が家庭科とSTEPのつながりを実感していることがわかる。

《質問1》家庭科の授業を通して、以下の8つの資質・能力で変容があったと感じるものを選びましょう。

（複数回答可）

《質問2》資質・能力に変容があった場合。授業のどのような活動や課題が影響を与えましたか。

回答の上位4つの資質・能力については以下のものであった。

1年生 128人回答		影響した活動や課題	2年生 125人回答		影響した活動や課題
1	振り返り 62人	・授業の終わりに振り返りをして次の学習につなげることができた ・授業でやったことを家でするとき思い出して参考にできた	1	協働 85人	・調理実習で班の人と協力する ・班で協力して一つのものを作るとき ・班で調べたり、意見を出し合う時 ・班の交流で新しい意見が生まれた

2	協働 57人	・グループで相談して決めるとき ・班活動をする際、意見が深まる ・班活動で話し合っって答えを導き出す	2	振り返り 69人	・調理実習で失敗した時、次からはこうしたら効率よくできるなど振り返っているとき
3	問題発見 56人	・環境に配慮するためにどうすればよいかと考えたとき ・自分たちの暮らしと照らし合わせたときに問題はないかと考えた	3	問題発見 61人	・物事のメリット・デメリットを考える活動 ・調理実習でやってみてわかった問題点を発見できた
4	伝達・発信 55人	・わかりやすいように伝えて、興味維持ってもらえるようにした ・みんなの前で発表したり情報をまとめたりすることで慣れた	4	アイディア 55人	・発表の時にみんなに伝わりやすいようにスライドや原稿に工夫を加えた ・献立のアイディア ・エコクッキングを考えたとき

《質問3》家庭科の授業とSTEPの取組に“つながり”はあると感じますか。4択（1. かなりつながりがある、2. ある程度つながりがある、3. あまりつながりがない、4. つながりはない）

《質問4》“つながり”があると回答した場合、どのようなつながりがありましたか

1年（128人回答）1+2（肯定的な割合）＝58.4%	2年（125人回答）1+2（肯定的な割合）＝68.0%
・班の人と協力して考えたり自分の意見を伝えたりすること ・みんなが暮らしやすい社会というのが同じ ・STEPでは人々のためになることを考えるので、どうすれば快適な生活を送れるのか考える家庭はつながりがある ・環境について考えるという点　・環境に配慮した生活 ・班での協力や調べ学習で学びを深めるところ ・自分と照らし合わせて考える活動 ・聞き手に印象を与えるようなプレゼン資料を作ったり、話し方をするという点 ・根拠や本当にそうなのかを考えたり、ほかの人と意見交流したりするのはSTEPでもとても必要なスキルだから ・世の中の動き ・自分の生活にどのように生かせるかを振り返るとき	・他者と協力したり、身近なところから物事を考えるときに家庭で学習した知識を活用した ・発表や意見を出し合うとき ・問題発見して解決すること ・問題に気づいてよりよくしていこうとしていくところ ・他者と協力すること（調理実習、班活動） ・じっくり調べるという点 ・他の人の立場で物事を考えるとき ・解決策について、じっくり考えることや伝達発信をするにはどのようにしたら効果的かを考えること ・テーマそのもの（食品ロス、フェアトレード、食糧問題） ・環境に配慮した生活。（エコクッキング、3R）

上記のように、STEPの取組と家庭科とは双方に関わり合っていると感じている生徒が多いことがわかる。STEPの取組を通して育成された資質・能力を家庭科で発揮することで、学びの質が高まり、資質・能力がさらに伸びるという好循環が生まれると考える。例えば、STEPのテーマが衣食住や消費生活と関連している場合、内容面で共通しているため、学びが深まる。また、家庭科は生活に課題を発見する教科のため、STEPの問題解決的な学習で磨かれた資質・能力は家庭科の学習に十分いかされている。

4. 実践例

第2学年

（1）題材名 食生活をデザインしよう ～ボリュームサンド～ B（2）イ （3）ア（イ）、イ

（２）目標

- ①・中学生に必要な栄養を満たす１日分の献立作成の方法について理解する。〔知識及び技能〕
・食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理と調理について理解し、適切にできる。〔知識及び技能〕
- ②昼食（ボリュームサンド）の調理について、献立作成し、食材の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫する。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ③充実した食生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

（３）題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・中学生に必要な栄養を満たす１日分の献立作成の方法について理解している。 ・食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理と調理について理解し、適切にしている。	・「ボリュームサンドの考案」を通して食生活に関する問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・充実した食生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

（４）STEP との関わり

①家庭科としてのとらえ

家庭科は家庭生活そのものを学びの対象としているため、社会や経済、環境との結びつきがある。家庭科の見方・考え方として「協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」が挙げられている。STEP の研究テーマの中にも「衣食住」や「家族」「消費生活」に関わるものなど直接的につながっているものがある。家庭科での学習がきっかけとなり、探究学習のテーマを設定した生徒がいたり、STEP の取り組みが家庭科の学習を深めることにつながったり、双方向で影響し合っていると考える。

②育成したい資質・能力について

家庭科では、自分の生活と照らし合わせながら学習課題に取り組み、社会の変化に応じて現状を見直し、よりよい生活をめざす態度を養っているため、８つの資質・能力すべての育成を図ることを大切にしている。本題材の学習においても、【根拠】【じっくり・いろいろ】【アイディア】【問題発見】【問題解決】【振り返り】の６つの資質・能力すべての育成を図っていく。具体的には、「（５）指導について」で詳細に記述していく。また、【協働】【伝達・発信】はグループ活動や調理実習、パフォーマンス課題作成、課題の交流を通して育成を図っていく。

（５）指導について

本題材全体を貫く問いとしては、「自分自身にとっての充実した食生活とはどのような生活か」を設定した。その問いに対して「自分自身にとっての充実した食生活とは、栄養面や健康面だけではなく、おいしさ・調理にかかる時間・見た目や彩り・調理における環境への負荷・だれに作っているか・調理にかかった

費用・食文化の継承・調理時の安全、衛生面など多面的に自分自身で大切にしたい側面から営まれる食生活を表す。」と生徒のライフスタイルに応じて、自分自身が大切にしたい視点から多面的に充実した食生活を捉えることを目指した。課題設定を生徒にとって身近で実生活につながるものとするため、調理実習で取り組む献立をボリュームサンドイッチに選定した。ボリュームサンドイッチは“映える”サンドイッチとして、SNS などでも多く取り上げられており、生徒の興味・関心を持つと考えた。

本題材「食生活をデザインしよう」ではパフォーマンス課題への取組を題材のヤマ場に設定している。

第1時では、あなたにとって「楽しい食事とは?」「充実した食事とは?」を考えることを通して、自分の食生活を振り返り、より良い食生活に向け主体的に取り組む態度を養うことをめざす。【じっくり・いろいろ】【振り返り】【問題発見】

第2時では、献立作成にはどんな要素があるか考え、手順について理解する。6月のある日を想定し、一日分の献立を作成する。昼食は学校の給食（全員が同じ食事）とし、中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立となるように朝食と夕食の献立を考えさせる。【問題発見】【問題解決】【アイディア】

第3時では、食中毒の予防・対策について根拠に基づいて考える。また、調理実習を想定し、安全で衛生的な調理について班で確認し、ルールを作成する。【根拠】

第4時（本時）では、昼食（ボリュームサンド）の献立を作成する。まず、班でシナリオ設定（どこへ誰と何をしに行く）を具体的に考え、それに適した昼食の献立（ボリュームサンド）を様々な視点を働かせて考える。【協働】【アイディア】【じっくり・いろいろ】【根拠】。

第5時では、班で考案したボリュームサンドをどう調理（材料、分量、調理方法、調理手順、時間）するかを具体的に計画する。【じっくり・いろいろ】【協働】

第6時では、班で計画したボリュームサンドを実際に調理する。【協働】

第7時では、これまでの学習を振り返りながら、調理実習について班で意見を交流し、実践を振り返る。その後、学習のまとめを実践記録としてタブレットを活用し、一枚のスライドにまとめる。【振り返り】【協働】。

第8時では、前時に作成したスライドを用いて学習のまとめをプレゼンする。【伝達・発信】【振り返り】グループ内で全員がプレゼンした後、代表者が全体でプレゼンする。

毎時間、振り返りの時間を設け、現在や将来の生活にどのようにつながるか考えさせた。

（6）指導と評価の計画（全8時間）

●：形成的評価 ○：総括的評価

時間	□ねらい ■学習活動	評価の観点			評価方法	育成したい 資質・能力
		知	思	態		
第1時	□充実した食事について考えることを通して、自分の食生活を振り返り、より良い食生活に向け主体的に取り組む態度を養う。 ■「あなたにとっての食事とは」について考える。 ・楽しい食事とは? ・充実した食事とは?		●	●	●ワークシート	【じ】 【振】 【発】
第2時	□献立作成の手順を理解する。 ■献立作成の要素や手順について考える。 ■一日分の献立の作成（昼食は給食とする）	●	●		●ワークシート	【発】 【解】 【ア】

第3時	☐ 安全で衛生的な調理について理解する。 ☒ 食中毒の予防・対策について考える。 ☒ 調理実習を想定し安全で衛生的な調理について考える。	●	●		●ワークシート	【根】
第4時 (本時)	☐ 昼食(ボリュームサンド)の献立作成を通して充実した食事について考えを深める。 ☒ 昼食(ボリュームサンド)の献立を作成する。		○		○行動観察 ○ワークシート	【じ】【根】 【協】【ア】
第5時	☐ 昼食(ボリュームサンド)の調理計画を立てる。 ☒ 昼食(ボリュームサンド)の具体的な調理計画を立てる。		○		○行動観察 ○ワークシート	【じ】【協】
第6時	☐ 調理実習(ボリュームサンド) ☒ 班ごとに計画したボリュームサンドを調理する。	●	●		●行動観察	【協】
第7時	☐ 「食生活をデザインしよう」の学習を振り返る。 ☒ 調理実習を振り返る。(班) ☒ 学習の振り返りを実践記録としてタブレットで1枚のスライドにまとめる。(個人)		●	●	●ワークシート	【振】 【協】
第8時	☒ 学習のまとめ(スライド)をプレゼンする。 ☐ 学習のまとめをプレゼンする。	○	○	○	○プレゼン ○資料	【振】 【伝】

※育成したい資質・能力の表記は省略した名称で記述している。

根拠 ⇒ 【根】 じっくり・いろいろ ⇒ 【じ】 アイディア ⇒ 【ア】

問題発見 ⇒ 【発】 問題解決 ⇒ 【解】 振り返り ⇒ 【振】

協働 ⇒ 【協】 伝達・発信 ⇒ 【伝】

(7) 本時の指導について

- ①目標 中学生に必要な栄養素を考慮し、昼食(ボリュームサンド)の献立を様々な視点を働かせ考える。 [思考力, 判断力, 表現力等]

②本時の指導計画(50分)

学習活動	○指導上の留意点 ◆評価	育成したい 資質・能力
1. 学習課題について知る。 <課題>シナリオ設定し、昼食としてのボリュームサンドを考案する。 ・状況設定(シナリオ作成) <班活動> ・時期は6月(初夏)とする。 ・誰とどこへ何をしにいくか	○昼食としてボリュームサンドを調理実習で調理することを知らせる。 ○状況設定(シナリオ)を班で考えさせる。 あなたは、○○と○○へ外出することになりました。昼食として、ボリュームサンドを作って持っていくことにしました。あなたにとって、よりよいボリュームサンドを考案しましょう。	【協】

2. 充実した食生活について班内で意見交流し、シナリオに適したボリュームサンドを考案する。 3. まとめ (本時の振り返り)	・誰とどこへ何をしに行くのか具体的に決める。 ・調理実習は6月中旬に実施。 ○第1時で考えた「充実した食生活」を班内で交流させ、シナリオに適したボリュームサンドを班で考案させる。 ○単に好きなもの、栄養バランスが良いものというように一側面だけで考えるのではなく、複数の側面から総合的に考えることを促す。 ○班で考えることにより、互いの足りない部分に気づいたり、補い合ったり、意見を調整し合ったり、一人では得られない学びを大切にする。 ◆中学生に必要な栄養素を考慮し、昼食の献立を様々な視点を働かせ考える。(思) ○今日の学習を振り返り、シートに記入させる。	【協】 【ア】 【じ】 【根】 【振】
--	--	--

(8) 本題材の成果と課題

題材(全8時)を通して、「充実した食生活とは」を考え、課題に取り組むことができた。グループ活動【協働】を多く取り入れることで自分一人では考えられなかったことや解決できなかったことが可能となった。また、複数で話し合うことで【じっくり・いろいろ】と批判的思考を働かせ、他者の考えを尊重したり、新たな考えを導き出したりすることができた。中学校で初めての調理実習ということもあり、調理手順のミスや材料の余剰、調理技術の未熟さからの失敗など、反省点も多くあったが、生徒の振り返りには今後につなげ、改善のための材料にしていきたいという記述が多かった。また、調理実習後、家族のために家で作った生徒もあり、学習が家庭での実践につながった。

【振り返り】より

- ・料理の難しさやおもしろさがわかった。
- ・事前の計画が大切なことがわかった。
- ・自分にとって“充実した食生活はどのようなものか”を考え、それをふまえた上で調理実習をすることで、何をしたらより理想のものをつくりあげることができるのかを考えて行動することができた。
- ・料理を作ってくれる人の気持ちが分ったり、料理の楽しさを知ることができた。
- ・一方から見るのではなく、見方を変えることによって、安全面、健康面、味について知れたり、重視できたりすることを学習を通して知りました。また、それらに気をつけ、見た目、匂い、量を整えることで充実した食生活をつくりあげることができることに気づきました。
- ・協力したり、役割分担して効率的にすすめていくことが大切だと思った。
- ・調理をするにはたくさんのことに気をつけなければいけないことを知った。まず、「楽しい食事」とはどんなものか考えることだ。これは人によって違う意見をもっているのだから、考えるのが難しいと思った。
- ・私は「おいしければよい」と考えることがよくあるため、栄養をとれる食事がいかに大切かを知れて意識するようになった。いつも何品もつくっているお母さん、おばあちゃんがどれだけ手間をかけているのか知った。感謝するようにしようと思う。

学習のまとめ（スライド）では，【根拠】に基づいたこと，【問題発見】【問題解決】についての記述があったり，他者が見やすくわかりやすい【アイディア】があったり，本題材を通して育成したい資質・能力の変容を見ることができた。課題としては少数ではあるが，班員の力に頼り切っている生徒がいたことである。

本題材を通して，「自分にとって充実した食事とはどのようなものか」を考えることで，自分の食生活について様々な視点で考えるきっかけとなり，生活の主体者へ一歩近づくことができたと感じる。

＜生徒作品＞ ワークシート（本時）…活動２（班で充実した食生活について交流）の場面で使用

2. 班で考えたこと(記録)	
① 誰と(<u>班メンバー</u>) どこへ(<u>公園へ</u>) 何を(<u>ピクニック</u>) 時期:初夏(6月)	
② 班のみんなにとって「充実した食生活」とは ・色とりどり, 食べて楽しい. ・毎日食, 味も有り美味有り笑顔有り. ・栄養バランス (多量) 少な (少) (おいし) (おいし)	
③ どんな基準で考える? ・皆が食べたいものを考える。	
④ 目的にあったボリュームサンドをデザインするために ・各自, 好きな食材を考える。 ・それぞれ分量を調節しよう。 ・ボリュームが出るように, 食材ののせを考える。	

2. 班で考えたこと(記録)	
① 誰と(<u>友達</u>) どこへ(<u>公園</u>) 何を(<u>ピクニック</u>) 時期:初夏(6月)	
② 班のみんなにとって「充実した食生活」とは ・おいしい 見た目いい ・一緒に食べる人がいる ・栄養価が高い	
③ どんな基準で考える? ・色鮮やか 4/6 群以上 いれる ・地味地味	

2. 班で考えたこと(記録)	
① 誰と(<u>友達</u>) どこへ(<u>水族館へ</u>) 何を(<u>遊</u>) 時期:初夏(6月)	
② 班のみんなにとって「充実した食生活」とは 健康的な食事 おいしい → 苦手なものが入っていない, 色々な食材が入っている。 色とりどり	
③ どんな基準で考える? 相手が喜ぶ → 卵や卵, 魚が 簡単でおいしい (豪華すぎない) 友達と行くため 栄養バランスが良い → 野菜も, ぷりに	

<生徒作品> ボリュームサンドのまとめ（第7時）…各自、スライド1枚にまとめる

「ボリュームサンド」

シチュエーション
→友達と音楽公園で遊ぶ

材料
食パン8枚切（4）、紫キャベツ（4分の1）、卵（4）
サラダチキン（2）、トマト（1）、スライスチーズ（4）
レタス（4分の1）、塩、砂糖

なぜこのデザインにしたのか
→美味しくヘルシーに食事を楽しみたいから

イメージ
イメージと違ってる断面からトマトが
見えぬ!!!

完成!

サラダチキンは花のように
上手に切って盛り付けられた。

できたこと
→班での協力、工夫（食べる人によって具材を変えた）、
紫キャベツで彩り豊か、具材を多く詰めて満足できるように

できなかったこと
紫キャベツの芯（？）があったのか、
固い部分が残っていた→事前に調べていなかった

今後に向けて
今度は家で、もっと「肉」や「魚」など「メイン」の
ものを決めてボリュームサンドを作ってみよう!

「夏にぴったり! さっぱりサンド」

【このデザインにした理由】

私の「充実した食生活」は栄養バランスと季節感です。
このボリュームサンドは1、3、4、5、6群と幅広い食材を使い増した。
また、夏という季節感も欲しかったので、
トマトやきゅうりなどの夏野菜も使いました。
初夏の公園でとても暑いと思うので、全体的に
さっぱりとしたボリュームサンドにしました。

【シナリオ】

T: 初夏
P: 近くの公園
O: 遊びに行く

【材料】 パン・レタス・卵・トマト・きゅうり・

生ハム・マヨネーズ・胡椒・

ブラックペッパー

【成果】

- ・味はばらつきが出ず、まとまった味になった。
- ・季節感が出た。
- ・美味しかった。
- ・余ったものも活用できた。

【反省】

- ・2群だけ使えなかった。
- ・生ハムの味があまり出なかった。

【今後につなげたいこと】

- ・献立を作るときに、栄養バランスをしっかりと考えたい。
- ・TPOも配慮しながら考えたい。



色彩豊かなサンド

〈状況設定〉

友達の家でゲームをしに行く。

〈デザインの理由〉

まず、状況設定によりボリュームサンドは冷蔵庫で保管されるものと思われるので食中毒面ではあまり注意しなくて良い。だから、**見た目**を重視した。トマトは赤、卵は黄、レタスは緑、ベーコンはピンクと彩りを豊かにした。勿論栄養面でも**6つの基礎食品群**が全て含まれるようにした。

〈反省点〉

- ・ベーコンを炙るときに油は引かなくて良かったこと。(元々ベーコンには油があるので)
- ・卵をスクランブルエッグにしてしまったのでとても食べにくかった。



〈材料〉 トマト・ベーコン・卵・砂糖・牛乳・レタス・わさび醤油

〈今後の課題点〉

- ・今回は見た目をこだわったが、次は「食べやすさ」にも少し観点置いて材料を選んでいきたい。

〈良かった点〉

時間配分が上手くいき、計画的に調理を進められたこと。

5. 成果と課題

「1. 教科として大切にしていること」で挙げた3点（学習課題の工夫、実践的・体験的学習の充実、他者との協働・対話）を踏まえ、実践例のような問題解決的な課題（生活の見直し、シナリオ設定、それに適したボリュウムサンドの考案、調理、振り返り）を設定し、学習を進めることで、前述のように生徒の資質・能力に変容が見られた。調理実習のように実践的・体験的学習を通して得たものは、生徒の中に長期的に残り、家庭での実践につながりやすいことがわかった。（以下参照）実践例の調理計画など班活動で班員と対話したり、協働したりするからこそ導き出すことができたことがあった。また、協働することで、個の力もグループや学級といった集団の力も共に伸びると考える。今後も家庭科として大切にしていることに重点を置き、資質・能力の育成をめざしていきたい。

昨年度末に実施したアンケートで「家庭科の授業が自分の生活につながったり、役だったりしたことについて」尋ねた結果（食生活に関する記述）は以下であった。

- ・家で料理をする機会が増えた。
- ・家で作れる料理が増えた。
- ・家にある賞味期限の近い備蓄食材を使って料理をすることができた。
- ・食品ロスを減らすために賞味（消費）期限の近いものから食べるようになった。
- ・食べられる部位を限界まで使う意識が家庭内で広まった。
- ・授業でした料理や災害のことについて家族に教えたり自分から行動したりすることができた。
- ・魚があんまり好きじゃなかったけど白身魚と赤身魚のことについて学んで、鮭が食べられるから白身魚やったら食べられるんじゃないって食べてみて少し食べられるようになりました。
- ・食材の情報をいろいろ知ることができて、家庭内での話題が増えたなと思います。
- ・料理をするときの見方が増えた。昔は食べたいものを作るといった感じだったが、最近は栄養や見た目、季節などを考えながら作るようになった。

学習したことを家庭で話題としたり、実践したりしながら、よりよい家庭生活へつなげている生徒がいることがわかった。

課題としては、個人差はあるもののまだ生活の主体者とはなっていないこと、自分の現在の生活に困ってなければ、特に問題を感じないという面が大なり小なりあることである。今後、将来への見通しを持つことや【問題発見】【問題解決】の力の育成に力を入れていきたい。また、地域社会との連携やゲストティーチャーなど外部や専門家の力を借りることも進めていきたい。

〈参考文献〉

- MI 三重大大学教育学部附属中学校(2012):『研究紀要 ともに学びともに高めあう学校の創造—つながりあう力が伸びる「学び」その資質向上をめざして—』第26集.
- MI 三重大大学教育学部附属中学校(2014):『研究紀要 ともに学びともに高めあう学校の創造—未来を創る「人間力」をもった生徒の育成—』第27集
- MI 三重大大学教育学部附属中学校(2016):『研究紀要 ともに学びともに高めあう学校の創造—生徒が夢になる授業づくり—』第28集
- NI 西岡加名恵 (2008):「逆向き設計で確かな学力を保障する」明治図書.